



新類題發句集
春



中村俊定文庫
文庫 18
666
1



十卷一册
類題句
...



作之升空也 古之新韻也 今之新韻也
新韻題曰 皇朝詩林 今之新韻也
歷代詩林 皇朝詩林 今之新韻也
皇朝詩林 皇朝詩林 今之新韻也
皇朝詩林 皇朝詩林 今之新韻也
皇朝詩林 皇朝詩林 今之新韻也
皇朝詩林 皇朝詩林 今之新韻也

皇朝詩林 皇朝詩林 今之新韻也
皇朝詩林 皇朝詩林 今之新韻也
皇朝詩林 皇朝詩林 今之新韻也
皇朝詩林 皇朝詩林 今之新韻也
皇朝詩林 皇朝詩林 今之新韻也
皇朝詩林 皇朝詩林 今之新韻也
皇朝詩林 皇朝詩林 今之新韻也



新類題發句集春之部

正月

蝶夢編

晴月

行公心月夜月

日向 春鳥

去春

其心也常尔也

伊勢 弘長

其心也常尔也

流方 吳竺

其心也常尔也

延仁 石言

初春

初春也常尔也

末 重厚

Handwritten text in cursive style, likely a poem or commentary, spanning the right page.

初難 後 應字
 初鳥 門 青楊
 初夏 吳 退二
 初霞 漢 燕丈
 初風 如 如在
浪 岸浪
北 北岸
但 須惠
丹 踏山
源 舊國

春三

初日 天 文典
 之日 信 錦水
 二日 伊 浙江
 三日 京 南更
廣 松崎
城 藻水
播 五香
末 輪台
迫 花鳥
丹 其白

二月日

優くはあそぶるにふりて

辰花 芙蓉

ふりて梅のこころを馬の

乙何 木束

火のつらさを秋のけ

山花 風枝

つらさを春のけ

尾花 学海

つらさを夏

伊夏 冬李

つらさを冬

近江 塘里

つらさを春

吉江 程巴

つらさを夏

乙夏 方壺

つらさを冬

吉江 之巴

つらさを春

吉江 柙也

春四

徳園類

土恵方

乙方欄

辛柙

門招

連のれやふりて

伊智 行充

一日のちかき

英江 阿馬

のちかき

後中 糸田

橋守や柳の

渡法 江山

さうと来りて

丹后 群菜

物中のちかき

尾花 好古

まのせいかた

出羽 木吾

つらさを

吉江 呂博

つらさを

乙何 梅門

つらさを

吉江 杜隣

飾繩

飾炭
飾海
齒束
標

申すことばにあらはれしる繩
流連しつゝおぼゆるはれぬ
心武
李朝
秋涼
李昌
松坐
朝暮
夏栗
巨築

春五

若水

大服
齒固

らびりや流の餅乃物きり
うらみやも桶桶物の本丸白
若水や流はまぐはさき身水
わらび流の井の中へさの雲
若水や流も空の流るる
和らびも若水も流るる
大服も一とせしるさり各
大服も團扇の座をゆる
流るるもさるるさるる
流るるもさるるさるる

下種 金牛
如友
文瓜
布重
五行
婆心
魚赤
芦口
如泉
緑古

雜煮

善祝

大箸

鏡餅

席穂酒

雑煮は冬に食すものなり此は
和子の種は流しに食すものなり
味は乃湯かかれば湯は年々
大箸も割れども此種は作り
おとせしは握りたるものなり
拾ひたるは年々食すものなり
善祝は乃湯かかれば湯は年々
流しに食すものなり此種は作り
おとせしは握りたるものなり
席穂酒は乃湯かかれば湯は年々
流しに食すものなり此種は作り
おとせしは握りたるものなり

伊勢 門風
信濃 猪葉
山城 一青
志保 奢洗
志保 曉東
紀伊 梅珠
伊豆 子論
伊豆 其朝
安藝 東吹

春六

蓬萊

倉棧

棋子

橋

樵

搗栗

串枅

洞の音もさうさうの年海人幸
其さうも教かたりしは昔は
蓬萊亭の李の海の日野の難
倉棧もかかればさうしは昔
くは棋もさうさうの年海人幸
かかればさうさうの年海人幸
美草も棋もさうさうの年海人幸
その音もさうさうの年海人幸
くは棋もさうさうの年海人幸

出羽 歩月
伊豆 三打
京 蝶夢
志保 野柳
如戸 鳳裁
信濃 杏候
陸奥 陶々
和泉 牛文
近江 無徳
因幡 極花

植儀

橙

野老

田作

藪子

小糸系

岸がよむしり 志河 枝の友
海をうらみそ 国志 海をくも
神の業も 心も 春の道
たふし 心も 志をいひ 心も 志を
心も 志をいひ 心も 志をいひ
冷つ 糸 糸の 心も 野老の心
心も 糸 糸の 心も 野老の心
田の心も 糸の 心も 野老の心
心も 糸 糸の 心も 野老の心
心も 糸 糸の 心も 野老の心

伊勢 雲華
位法 鳥木
歌奇 露吟
尾尾 山呼
糸 座忘
位法 文育
大石 涼石
松澤 十二巧
心 一葉
筑前 花朝

美有七

押鮎

園葉

閑豆

掛鯛

心も 糸 糸の 心も 野老の心
心も 糸 糸の 心も 野老の心
心も 糸 糸の 心も 野老の心
心も 糸 糸の 心も 野老の心
心も 糸 糸の 心も 野老の心
心も 糸 糸の 心も 野老の心
心も 糸 糸の 心も 野老の心
心も 糸 糸の 心も 野老の心
心も 糸 糸の 心も 野老の心
心も 糸 糸の 心も 野老の心

行内 仙意
丹后 行竜
歌後 阿羅
伯耆 友珠
丹波 東亭
浪子 百男
美有 我口
石見 凡馬
千尺 燕士

福業

青の蒼し物ありしとて
此山よりその幸ありし福あり
福業也大志ありしとて
其業は富ありしとて
いふも其業ありしとて
おのそ業ありしとて
此山よりその幸ありしとて
福業也大志ありしとて
其業は富ありしとて
いふも其業ありしとて
おのそ業ありしとて

末 野風

北 二区

西 西席

近 兼路

張 吉竹

伴 月美

佐 如白

上 野山

花 周美

春八

庭電

法降

稻積

長男

長男の撰むるもの
かゝるもの後人
此山よりその幸ありしとて
福業也大志ありしとて
其業は富ありしとて
いふも其業ありしとて
おのそ業ありしとて

長 鯨山

遠 扇南

信 徐来

陸 司景

如 东芽

如 如調

出 鶏口

推 推五

素 素山

素 素山

初曆

水祝

吉書始

吉書始

素山

讀始

弓始

馬始

船始

書初也世り〜の〜
半初也〜
よん初也〜
孝初也〜
弓初也〜
強初也〜
馬初也〜
の初也〜
手初也〜
舟初也〜

五弟
右弟
左龍
隅川
清好
羊几
富々
航翠
園台
左文

春九

鋤始

高始

衣始

藏用

帳用

鋤初也〜
高初也〜
衣初也〜
藏初也〜
帳初也〜

馬瓢
下節
門忍
其中
信川
波公
墨人
西李
花書
左柳

鳥衣始

籟初

彈初

湯爰始

帳中書也... 鳥衣始... 湯爰始... 彈初... 籟初... 鳥衣始... 湯爰始... 彈初... 籟初...

丹名 百尾 紀伊 一川 桃紅 遠白 木壳 值中 杜陵 羽翁 出羽 百中 紙序 梅旭 和泉 德若 嗽流

春十

舞初

楓初

松雅

子壽方歲

山形... 舞初... 楓初... 松雅... 子壽方歲... 山形... 舞初... 楓初... 松雅... 子壽方歲...

流花 来之 加夜 美山 但了 孤舟 吳法 月紀 或后 梅和 吳法 合生 上院 素明 直白 喜舞 末 五雲

大黒

夷廻

春駒

猿引

鳥道

まじりておもしろくも
 大黒の舞
 夷廻の舞
 春駒の舞
 猿引の舞
 鳥道の舞

土佐女
 白雅
 武仲
 青子
 奇行
 白菊
 藤与
 梅二
 竹涼
 亀弓

春土

破扇弓

破扇矢

練打

玉打

羽子板

胡鬼子

破扇弓
 破扇矢
 練打
 玉打
 羽子板
 胡鬼子

春溪
 風葉
 蓬室
 是月
 嵐花
 一路
 百橋
 梅里
 甲魚
 銀獅

身課

寶月

福引

年吉

年吉の事は... 福引の事は... 寶月の事は... 身課の事は...
年吉 巴陵 福引 其流 寶月 紫曉 身課 馬吹
年吉 其九 福引 梧泉 寶月 柴菊 身課 冬軒
年吉 膳花 福引 其九 寶月 柴菊 身課 冬軒

春十二

節食

藪入

節食の事は... 藪入の事は...
節食 巴陵 藪入 其流
節食 其九 藪入 其九
節食 曾白 藪入 其九
節食 山父 藪入 其九
節食 至富 藪入 其九
節食 次人 藪入 其九
節食 東九 藪入 其九
節食 梯風 藪入 其九

里下
鏡餅開

春南
散菴
野亭
秋鳥
如髮
此柏
羽谷
戲珠
探夢
似研

春十日

若餅
細串
爆竹

六橋
越勢
冬秀
菴山
有交
菊乙
吳琴
丁水
巴川
梅東

松内

...

木取

去る年木取むしりて門を月
相りて木根をむしりて
土をむしりて木根をむしりて
戸口をむしりて木根をむしりて
土をむしりて木根をむしりて
下をむしりて木根をむしりて
一はむしりて木根をむしりて
木の目もむしりて木根をむしりて
木根をむしりて木根をむしりて
木の目もむしりて木根をむしりて

長岐

浮大

長岐

小葉士

北后

詩石

末

曲川

丹波

芝友

丹波

太漢

丹波

風葉

丹波

竹管

丹波

木志

丹波

木志

丹波

木志

丹波

木志

丹波

木志

春十四

初寅

木芽積

初子日

小松虫

善菜

木の目もむしりて木根をむしりて
木の目もむしりて木根をむしりて
木の目もむしりて木根をむしりて
木の目もむしりて木根をむしりて
木の目もむしりて木根をむしりて
木の目もむしりて木根をむしりて
木の目もむしりて木根をむしりて
木の目もむしりて木根をむしりて
木の目もむしりて木根をむしりて
木の目もむしりて木根をむしりて

甲斐

百原

飛澤

竹舟

江戸

喜坡

和泉

有時

和泉

葉々

末

几董

末

初平

江戸

古竹

江戸

古名

江戸

八十

善業實

つゞく神農の御殿に松の
 枝は女の目も見るか
 善業その申すもなれば
 女は髪を洗つて水うわす
 松をうらゝすはるはる
 七廿也 髪のはりて糸
 女の髪を洗い水うわす
 七廿也 髪のはりて糸
 女の髪を洗い水うわす
 七廿也 髪のはりて糸

讀改 嗽石
 武彦 柳也
 江戸 崩六
 江戸 著莪
 江戸 仙雲
 江戸 魚皮
 上野 魚園
 江戸 布舟
 讀改 化麥
 一巴

七廿

春十五

善

善業粥

福桶 粥柱

七廿也 善業粥
 七廿也 善業粥
 七廿也 善業粥
 七廿也 善業粥
 七廿也 善業粥
 七廿也 善業粥
 七廿也 善業粥
 七廿也 善業粥

末尾 粥之
 江戸 青莪
 江戸 一斤
 江戸 魚漬
 江戸 莪和
 江戸 寸坊
 紀伊 環程
 江戸 西佛
 甲斐 白齋
 信州 李山

粥杖

赤豆粥

福壽竹

下萌

粥つゝも神の食なりと云ふ
粥杖や赤豆粥の杖杖杖杖
大善の杖杖杖杖杖杖杖杖
福壽竹杖杖杖杖杖杖杖杖
梅杖杖杖杖杖杖杖杖杖杖
下萌杖杖杖杖杖杖杖杖杖杖
赤豆粥杖杖杖杖杖杖杖杖杖杖

綾足
末女
近江
木槿
南無
琴之
梅珠
素琴
五峯
石馬
布子

春十六

草芽

若草

下萌や草の芽の芽の芽の芽
若草や草の芽の芽の芽の芽
草の芽の芽の芽の芽の芽の芽
草の芽の芽の芽の芽の芽の芽
草の芽の芽の芽の芽の芽の芽
草の芽の芽の芽の芽の芽の芽
草の芽の芽の芽の芽の芽の芽
草の芽の芽の芽の芽の芽の芽

末
松化
竹涼
陸奥
麥雨
加賀
一形
安曇
唇風
甲斐
石牙
陸奥
柔貫
武蔵
鳳爪
丹后
木越
お伊女
仙鳥

善芝

春竹

柳葉

あまのやちのあめはさき
初は柳のまのうらみ
このまのうらみ
わさきもさき
たのうらみ
これさき
はなもさき
枯さき
このまのうらみ

素十
出羽 素山
好和
髪風
閑文
程玉
由父
仙雲
山香

春十七

水入菜

寫菜

落葉

廣蒿

るるるるるるるるるる
雨のたれもさき
凍るるるるるるる
このまのうらみ
さき
花もさき
持人

十計
重厚
文和
暗花
李雲
路人
完来
渡口
一西奴
花胡

罌粟新葉
 菠蔞菜
 芥
 野犬根
 苦芽
 苦角
 萍生

七叶りのほりけのしるし
 梅のつぼみ
 芥のつぼみ
 野犬根のつぼみ
 苦芽のつぼみ
 苦角のつぼみ
 萍生のつぼみ

先右 鳥語
後右 植蘭
先右 蝶夢
武右 秋水
後右 雄羊
末 一韻
苦右 道肥
苦右 青容
苦右 其玉
苦右 嶺文

春十八

木芽
 梅

菰とわさびのつぼみ
 梅のつぼみ
 梅のつぼみ
 梅のつぼみ
 梅のつぼみ
 梅のつぼみ
 梅のつぼみ

後右 賣雪
後右 和雲
後右 陶々
後右 白雄
後右 千影
後右 飛古
後右 曾秋
後右 湖竹
後右 孤鴻
後右 意旨

柳

言そきて女白くもや本無心
正白くも女白くも女白くも
正白くも女白くも女白くも
正白くも女白くも女白くも
正白くも女白くも女白くも
正白くも女白くも女白くも
正白くも女白くも女白くも
正白くも女白くも女白くも
正白くも女白くも女白くも
正白くも女白くも女白くも

陸奥 泰里
伊勢 巨石
越前 杜竹
越前 梨青
越前 瓜坊
近江 縞酒
近江 巨海
近江 青馬
伊賀 片巻
伊賀 吳門

春百十九

青柳のあはれなるも
西の柳もあはれなるも
雨の柳もあはれなるも
志風もあはれなるも
大島もあはれなるも
古考もあはれなるも

依中 文里
近江 松巻
近江 兼二
近江 麓雨
近江 月村
近江 志風
近江 片巻
近江 大島
近江 古考

招緑

梅柳

春の柳書よもろもろの
 雪のりしすきり初やの書
 十も書きたるふかき土を
 橋のり風書つりも柳の
 碎るし柳もさけくも書
 村中の書よみもろもろ
 松や柳や梅や柳や里の川
 赤松やさくし柳もさく
 裾のりやさくし書よもろ
 渡松や渡柳や里の川

坂 甚化
 末 末之
 上 雨竹
 坂 徐々
 坂 麥字
 末 箕山
 坂 踏山
 坂 嶺文
 坂 都亭
 安 自歸

春廿

海苔

海雲

若海藻

渡風りゆもろもろの
 くのりや海苔書よもろ
 半書し珠もさくし
 何し海苔もさくし
 のり葉の潮の書よもろ
 十も書きたるふかき土を
 橋のり風書つりも柳の
 海雲りし海雲のり
 何し海雲もさくし

海 二柳
 近 沂風
 上 麥鴉
 近 馬隨
 坂 支那
 坂 蝶交
 坂 梧葉
 坂 和玉
 坂 見推

丁大根

丁基

醫

わあゝら杉布は似てゐる
梅ヶ井軒はあつちつり大根
日帯のふりひひり大根
あゝら世の世の世の世の世
鳥居のあゝ梅ヶ井のあゝ
あゝらあゝのあゝらあゝら
あゝらあゝらあゝらあゝら
あゝらあゝらあゝらあゝら
あゝらあゝらあゝらあゝら
あゝらあゝらあゝらあゝら

水 松崎 東溪 坡良 隆光 尾花 信光 江戸 麻刈 止島 加賀 松井 華 耳香 片足 長路

春元一

あゝらあゝらあゝらあゝら
あゝらあゝらあゝらあゝら
あゝらあゝらあゝらあゝら
あゝらあゝらあゝらあゝら
あゝらあゝらあゝらあゝら
あゝらあゝらあゝらあゝら
あゝらあゝらあゝらあゝら
あゝらあゝらあゝらあゝら
あゝらあゝらあゝらあゝら
あゝらあゝらあゝらあゝら
あゝらあゝらあゝらあゝら
あゝらあゝらあゝらあゝら

山後 音響 甲斐 鼓氷 遠江 虚白 伊勢 荒海 越前 雨人 近江 周文 近江 古菜 近江 舞辞 近江 素友 近江 素友

水鳥啼

百子鳥

Handwritten cursive text for '水鳥啼' and '百子鳥', consisting of approximately 10 lines of characters.

松中 松臥
之江 晋鷲
江之 山家
但馬 木次女
陸奥 小達
松本 松雨
丹后 荒牛
後年 標平
近江 孝友
上野 李雷

夫百廿二

白魚

干鰯

蛤

蜆

Handwritten cursive text for '白魚', '干鰯', '蛤', and '蜆', consisting of approximately 10 lines of characters.

後沙 青燕
之江 緑羽
伊豆 其雄
土佐 五右
佐佐 左一
長庚 木駕
之江 芝蘭
之江 梅泉
京 山家
只言

魚上永
瀬奈魚
春日

春風

の春風はゆるり加へて
何れも春風のゆるり加へて
魚上永の春風のゆるり加へて
瀬奈魚の春風のゆるり加へて
春日の春風のゆるり加へて
其川の春風のゆるり加へて
鰯の春風のゆるり加へて
鰯の春風のゆるり加へて
鰯の春風のゆるり加へて
鰯の春風のゆるり加へて

遠江 白轆
信光 麦光
青橋
蝶麦
其川
鰯
大和 不朽
加茂 白鳥
塘里

春九三

春風のゆるり加へて
何れも春風のゆるり加へて
魚上永の春風のゆるり加へて
瀬奈魚の春風のゆるり加へて
春日の春風のゆるり加へて
其川の春風のゆるり加へて
鰯の春風のゆるり加へて
鰯の春風のゆるり加へて
鰯の春風のゆるり加へて
鰯の春風のゆるり加へて

信光 机友
大和 一朶
加茂 貝朶
信光 二葉
信光 山菜
行光 杏清
信光 鳳翔
信光 百几
二柳
菊二

春雲

春の雲は傘をさすよけぬの如
くくも柳の古き春をけりせ
くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく

侍男 五鏡
板子 八丈
後方 李川
お折 一深
尾張 曉堂
近江 瓜江
丹后 馬耕
薩摩 菊州
播磨 寒嶋
近江 龍河

春九四

春の雲は傘をさすよけぬの如
くくも柳の古き春をけりせ
くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく

如才 出蒲
陸奥 楚山
丹后 芳雨
甲斐 汀岸
三河 吟雪
末 李成
淡路 習之
とほ 山市
丹後 幽堂
丹後 竹義

淡雪

枯木の雪の白くも
淡雪の降るも
あつちの雪の
淡雪の降るも
あつちの雪の
淡雪の降るも
あつちの雪の

分吹
力什
湖坊
柴山
吳冲
恕卿
立成
散菴
蝶曼
連月

春廿五

残雪

松の雪の白くも
淡雪の降るも
あつちの雪の
淡雪の降るも
あつちの雪の
淡雪の降るも
あつちの雪の

蒲天
仙如
角支
鷺石
我樂
桃里
葉亮
大養
弥芳
涼亭

雪解

霞

Handwritten cursive text for the '霞' section, consisting of approximately 12 vertical columns of characters.

子行
香貫
柔五
折風
疎雲
此花
山呂
長翠
五嶺

春廿七

鐘聲

Handwritten cursive text for the '鐘聲' section, consisting of approximately 12 vertical columns of characters.

其鐘
待石
素郷
荻葉
瓦全
若白
頼丈
文從

長閑

山道の清涼なるをわたりて
しほき清き世をゆく
のちのしほきなる清き世を
ゆきわたりて清き世を
ゆきわたりて清き世を
ゆきわたりて清き世を
ゆきわたりて清き世を
ゆきわたりて清き世を

梅子 竹
末 林島
日向 化公
住波 妻宮
土佐 子羽
長波 里十
筑前 信子
許男 龍諸
おん 見山

春廿八

麗

暖

餘寒

河

麗き世をゆく
暖き世をゆく
餘寒なる世をゆく
河をゆく

住波 後良
妻美 九十
加賀 後川
伊賀 瓦二
長門 芳智
如才 月守
紀伊 石睡
和歌 菊西
素友

妻の...
 此...
 知...
 是...
 羽...
 而...
 其...
 是...

陸奥 一尋
 陸奥 三白
 伊豆 蝶麦
 伊豆 杜音
 未 也
 友人
 末 兼
 仙李

二月

夫目九九

衣...
 二日...
 秋...
 初...
 二...

此...
 二...
 此...
 初...
 初...
 初...

陸奥 琴君
 近江 五来
 以后 九茎
 以後 萩
 以後 陽山
 以後 宗無
 陸奥 道肥
 以後 巴一
 以後 巨鳥
 以後 仙李

新能

涅槃會

あはれなる涙のこぼるる
あはれなる涙のこぼるる
あはれなる涙のこぼるる
あはれなる涙のこぼるる
あはれなる涙のこぼるる
あはれなる涙のこぼるる
あはれなる涙のこぼるる
あはれなる涙のこぼるる
あはれなる涙のこぼるる
あはれなる涙のこぼるる

大和 千壺
山内 李青
葉二
鮫風
木栄
只軒
持戸 久和
海勢 宗居
近江 山内

春三十

涅槃像

佛別

雪果

嵯峨柱炬

西行忌

あはれなる涙のこぼるる
あはれなる涙のこぼるる
あはれなる涙のこぼるる
あはれなる涙のこぼるる
あはれなる涙のこぼるる
あはれなる涙のこぼるる
あはれなる涙のこぼるる
あはれなる涙のこぼるる
あはれなる涙のこぼるる
あはれなる涙のこぼるる

大和 木栄
丹后 雁當
近江 白兒
出羽 南畝
山内 仙南
山内 仙南
山内 仙南
山内 仙南
山内 仙南
山内 仙南

積塔

貝寄風

聖靈舎

菓種供

寫引一しんは在あつぬゆん
のりぬあつてを梅久舞をなめ
積くもや塔の形あつぬゆの目
せき塔やるるあやうらな舞居居
貝寄や牛信所の梅乃心憂
貝寄あやと信所らく仲の丁
うきももあきあきの隔る貝居居
そくほ拂ひつゝと舞えそをきき
神もあつたも菓のたけの京
菓のあつたももあつたの梅乃心

末 蔭亭
倭花 巴川
末 姫喜
松伴 寸魚
末 秋
倭花 折風
末 友梅
末 杏序
末 相為
其朝

春三ノ

彼岸

信藝酒

そくはつはつたつたのつひ
あつたのあつたあつたのつひ
中もあつたあつたあつたの
あつたあつたあつたあつたの
あつたあつたあつたあつたの
あつたあつたあつたあつたの
あつたあつたあつたあつたの
あつたあつたあつたあつたの
あつたあつたあつたあつたの
あつたあつたあつたあつたの
あつたあつたあつたあつたの
あつたあつたあつたあつたの
あつたあつたあつたあつたの
あつたあつたあつたあつたの
あつたあつたあつたあつたの
あつたあつたあつたあつたの
あつたあつたあつたあつたの

倭花 金卮
末 一笑
倭花 抄和
末 月
末 田田
末 魚膳
倭花 古菜
末 鳥似
末 木越
末 自来

臘月

海山のりらりきり松田の月
湖のりらりらり松田の月
岸の中りらり松田の月
川の中りらり松田の月
山の中りらり松田の月
谷の中りらり松田の月
池の中りらり松田の月
田の中りらり松田の月
園の中りらり松田の月
村の中りらり松田の月
町の中りらり松田の月
里の中りらり松田の月

^約松後
^京子坤
^京東菖
^坂瓦全
^坂路天
^古古謙
^文文里
^一一岸
^安安若
^莞莞尔

春三三

春月

地の中りらり松田の月
山の中りらり松田の月
谷の中りらり松田の月
池の中りらり松田の月
田の中りらり松田の月
園の中りらり松田の月
村の中りらり松田の月
町の中りらり松田の月
里の中りらり松田の月
園の中りらり松田の月
村の中りらり松田の月
町の中りらり松田の月
里の中りらり松田の月
園の中りらり松田の月
村の中りらり松田の月
町の中りらり松田の月
里の中りらり松田の月

^松松田
^成成美
^佳佳し
^翁翁津
^土土鈴
^洞洞曼
^古古考
^如如毛
^獨獨石
^未未龍

春夜

為る梅の影をく月影の
出づる空の南の風はあつた
春の夜もも月の影はあつた
くまの影はあつた
春の夜の影はあつた
くまの影はあつた
くまの影はあつた
くまの影はあつた
くまの影はあつた

春雨

一は雨の影はあつた
傘さして馬を走らせける
春雨や停つた影はあつた
けしきもあつた
くまの影はあつた
くまの影はあつた
くまの影はあつた
くまの影はあつた
くまの影はあつた

遠江

遠江

里妹

蘭之

巨石

正巴

毛條

枝法

駒道

古行

雨竹

春三ノ巻

遠江

日向

杜由

遠江

猫線

遠江

郵洞

遠江

瓜房

遠江

石牙

遠江

巴陵

遠江

丈山

遠江

葉二

遠江

百枝

遠江

徐生

陽炎

其の如き其の如きとては其の如
くもるるや捨つと取らん人形壺
その如き旅人金銀の如き如き
空の如き旅人金銀の如き雨
かげりも波の如きとては其の如
くもるるや捨つと取らん人形壺
陽炎の如き其の如きとては其の如
くもるるや捨つと取らん人形壺
同結の如き其の如きとては其の如
くもるるや捨つと取らん人形壺

許男 幹負
陸奥 雙角
近江 得皮
持津 青牛
紀伊 雨沼
白江 疎光
桑 塘雨
上野 本空
武蔵 若石
伊勢 魚吹

春三十四

糸遊

其の如き其の如きとては其の如
くもるるや捨つと取らん人形壺
その如き旅人金銀の如き如き
空の如き旅人金銀の如き雨
かげりも波の如きとては其の如
くもるるや捨つと取らん人形壺
陽炎の如き其の如きとては其の如
くもるるや捨つと取らん人形壺
同結の如き其の如きとては其の如
くもるるや捨つと取らん人形壺

文里
北後 雀茶
後中 路凡
武蔵 雲江
紀伊 藩城
丹后 翠之
丹后 整樹
佐馬 東餅
佐馬 竹籠
是月

初電 初雷 水象 苗代

野馬の縁に古風な如し
 杉木を糸申ふに披の披乃程
 小遊やい極多なるは體あり
 屋敷のふみ針も初は是なり
 有る程神事なるめくは世に
 初もや願ふ事の上は其
 たる苗代もい程の如し
 たる苗代もい程の如し
 たる苗代もい程の如し
 苗代もい程の如し

丹後 流布
 丹後 太溪
 丹後 魚木
 伯耆 几董
 伯耆 雲五
 伯耆 眠亭
 美作 葉露
 美作 為樂
 出羽 重和

春三五

苗代もい程の如し
 たる苗代もい程の如し
 たる苗代もい程の如し
 たる苗代もい程の如し
 たる苗代もい程の如し
 たる苗代もい程の如し
 たる苗代もい程の如し
 たる苗代もい程の如し
 たる苗代もい程の如し
 たる苗代もい程の如し

丹後 流布
 丹後 太溪
 丹後 魚木
 伯耆 几董
 伯耆 雲五
 伯耆 眠亭
 美作 葉露
 美作 為樂
 出羽 重和
 丹後 流布
 丹後 太溪
 丹後 魚木
 伯耆 几董
 伯耆 雲五
 伯耆 眠亭
 美作 葉露
 美作 為樂
 出羽 重和

黄公菜

種井

種蒔

種下

種芋

菜蔓ありて治るべし其の種は
種はよく治るべし其の種は
種はよく治るべし其の種は
種はよく治るべし其の種は
種はよく治るべし其の種は
種はよく治るべし其の種は
種はよく治るべし其の種は
種はよく治るべし其の種は
種はよく治るべし其の種は
種はよく治るべし其の種は

土水 葛雲
其水 可云
近水 西序
近水 視山
近水 玉芝
近水 色江
近水 澄江
近水 種芋
近水 晋信
近水 喜嫩

春三六

晴陰

回打

畑打

燒野

わらびの種はよく治るべし
わらびの種はよく治るべし
わらびの種はよく治るべし
わらびの種はよく治るべし
わらびの種はよく治るべし
わらびの種はよく治るべし
わらびの種はよく治るべし
わらびの種はよく治るべし
わらびの種はよく治るべし
わらびの種はよく治るべし

近水 芦水
近水 箕山
近水 色江
近水 漢水
近水 素友
近水 蒲尺
近水 馬佛
近水 田心
近水 喜嫩
近水 瓜凉

防風 山葵 杉葉 土筆 狗脊

湯泉をくわく蕨のふきふき花の
根のふくふき花のふきふき
ふきふき花のふきふき
ふきふき花のふきふき
ふきふき花のふきふき
ふきふき花のふきふき
ふきふき花のふきふき
ふきふき花のふきふき

下注 尺艾
根後 槐膝
根後 柳蔕
根後 吏血
根後 竹母
根後 六合
根後 李凡
根後 素菊
根後 蔭香
根後 守溪

春三ノ八

獨活 慈姑 蒲公英 薊 眉作 蟹甲

赤根やうふ根を木多根の
水にのぼすのふきふき
ふきふき花のふきふき
ふきふき花のふきふき
ふきふき花のふきふき
ふきふき花のふきふき
ふきふき花のふきふき
ふきふき花のふきふき

下注 獨活
根後 茨口
根後 大痴
根後 吾令
根後 李郎
根後 簞山
根後 里正
根後 八水
根後 壬守
根後 踏山

若葉
葉花

肩の細葉を...
 育ち...
 葉の...
 白児
 由理
 士巧
 藤花
 了翁

春三十九

大根花

葉花

青茶子

三葉花

苜

胡葱

終の葉...
 引...
 揃...
 打...
 か...
 浅...
 七...
 七...
 喜...
 あ...
 堀
 松雨
 禹押
 琴石
 燕美
 故栖
 聖産
 米文
 冷水
 徳知

蕪 蒜 野葱 蕪菜 蓮菜 菜

餅の口と白くあつたふりふり
 蝶々も三つとふりふりに
 子もや知れずふりふり
 園守のふりふりふりふり
 送迎のふりふりふりふり
 餅のつとふりふり 蕪菜の花
 其風の中より舞ひ下り
 甘菜のふりふりふりふり
 名のふりふりふりふり
 此のふりふりふりふり

位波 胡花
 佐考 月梅
 後波 土俵
 陸奥 野波
 日向 大葉
 其白
 奉雨
 近江 東敵
 筑前 柗糸
 其方 送碎
 春四十

牡丹菜 牡丹 紅梅

牡丹のふりふりふりふり
 牡丹のふりふりふりふり
 牡丹のふりふりふりふり
 牡丹のふりふりふりふり
 牡丹のふりふりふりふり
 牡丹のふりふりふりふり
 牡丹のふりふりふりふり
 牡丹のふりふりふりふり
 牡丹のふりふりふりふり
 牡丹のふりふりふりふり

後波 左水
 陸奥 牡丹
 丹后 雨卷
 陸奥 采雲
 陸奥 延長
 三河 路拜
 末 本姿
 辰吉 其成
 奥 五子
 奥 師由

未開花

深き水に花の影をうつす

深水 善也

八重梅

花の影をうつす

花影 胡吹

越中梅

花の影をうつす

花影 鳳水

黄梅

花の影をうつす

花影 不末

初梅

花の影をうつす

花影 十牛

初梅

花の影をうつす

花影 秀堂

初梅

花の影をうつす

花影 此意

初梅

花の影をうつす

花影 牛也

初梅

花の影をうつす

花影 鳳字

初梅

花の影をうつす

花影 蘇去

春四ノ

初花

花の影をうつす

花影 岸左

花の影をうつす

花影 六羽

花の影をうつす

花影 雌養

花の影をうつす

花影 月舟

花の影をうつす

花影 冬咽

花の影をうつす

花影 冬花

花の影をうつす

花影 意國

花の影をうつす

花影 新姿

花の影をうつす

花影 長古

花の影をうつす

花影 長古

花の影をうつす

花影 長古

彼岸桜

糸桜

連翹

椿

花は白く、葉は濃緑色で、
 花びらには淡いピンク色の
 縁がある。花は枝の先に
 咲き、花の大きさは約
 5cm程度。花の香りは
 甘い。花の寿命は約
 1週間程度。花の栽培は
 比較的容易で、日照と
 水やりを適切に行えば
 問題なく育てられる。

二返

之蘭

三返

尚卿

狂序

去行

子影

出極

春四ノ二

桜花

み加木

花は白く、葉は濃緑色で、
 花びらには淡いピンク色の
 縁がある。花は枝の先に
 咲き、花の大きさは約
 5cm程度。花の香りは
 甘い。花の寿命は約
 1週間程度。花の栽培は
 比較的容易で、日照と
 水やりを適切に行えば
 問題なく育てられる。

枝鶴

夕霞

彩我

雨石

春香

曲川

奴以

寒口

朧暮

吾同

狗杞

接骨木花

接木

くまのせもれはくはめいあひりふ

一徹

はなもよもいふも枝もいふも

菊隱

志の静のよもいふも接木もいふも

坐忘

つとむもいふもいふもいふも

枯秋

梅の香はつたつ接木もいふも

方壺

梅の本は梅の花もいふもいふも

一

梅の香はつたつ接木もいふも

孤海

金はつたつ接木もいふもいふも

香風

雛子

接木

きつて静に静に静に静に静に

香風

春四ノ夫

秋の香はつたつ接木もいふも

秋瓜

おのろもいふもいふもいふも

滄浪

雛の香はつたつ接木もいふも

松雨

大佛もいふもいふもいふも

慈愛

きつて静に静に静に静に静に

酒水

梅の香はつたつ接木もいふも

青容

梅の本は梅の花もいふもいふも

文院

梅の香はつたつ接木もいふも

素人

梅の香はつたつ接木もいふも

指月

顔鳥
果鳥
燕

方々谷鳥 夜鳥 鳥 鳥 鳥 鳥
野鳥 鳥 鳥 鳥 鳥 鳥
都鳥 鳥 鳥 鳥 鳥 鳥
鳥 鳥 鳥 鳥 鳥 鳥
鳥 鳥 鳥 鳥 鳥 鳥
鳥 鳥 鳥 鳥 鳥 鳥
鳥 鳥 鳥 鳥 鳥 鳥
鳥 鳥 鳥 鳥 鳥 鳥
鳥 鳥 鳥 鳥 鳥 鳥
鳥 鳥 鳥 鳥 鳥 鳥
鳥 鳥 鳥 鳥 鳥 鳥

但馬 市曲
鳥 不送
鳥 古栗
鳥 翠室
鳥 采姑
鳥 九阜
鳥 何木
鳥 季燕
鳥 春鳥
鳥 春鳥

春四ノ四

帰雁

鳥 鳥 鳥 鳥 鳥 鳥
鳥 鳥 鳥 鳥 鳥 鳥
鳥 鳥 鳥 鳥 鳥 鳥
鳥 鳥 鳥 鳥 鳥 鳥
鳥 鳥 鳥 鳥 鳥 鳥
鳥 鳥 鳥 鳥 鳥 鳥
鳥 鳥 鳥 鳥 鳥 鳥
鳥 鳥 鳥 鳥 鳥 鳥
鳥 鳥 鳥 鳥 鳥 鳥
鳥 鳥 鳥 鳥 鳥 鳥
鳥 鳥 鳥 鳥 鳥 鳥
鳥 鳥 鳥 鳥 鳥 鳥

鳥 文耕
鳥 子来
鳥 文耕
鳥 宜窓
鳥 菜二
鳥 徳聖
鳥 几華
鳥 路候
鳥 了休
鳥 立送

行雁

湖のほとりまのこゝろの
うらやまのこゝろのこゝろ
ほろほろとこゝろのこゝろ
ほろほろとこゝろのこゝろ
ほろほろとこゝろのこゝろ
ほろほろとこゝろのこゝろ
ほろほろとこゝろのこゝろ
ほろほろとこゝろのこゝろ

眠房 如因 素兄 吉野 陸奥 梅曉 河海 秋毛 鷺橋 下流 湖大 吾船

卷四十五

雁別

引鴨 引鶴

よかたのこゝろのこゝろ
よかたのこゝろのこゝろ
よかたのこゝろのこゝろ
よかたのこゝろのこゝろ
よかたのこゝろのこゝろ
よかたのこゝろのこゝろ
よかたのこゝろのこゝろ
よかたのこゝろのこゝろ

丹后 其景 遠江 三山 山中 玉珂 尾及 和琴 抄味 牛外 丁水 末 官橋 江戸 朱文 但馬 比奈志

雲雀

中宮の御立寄りの御成程に
是れは御立寄りの御成程に
昔も御立寄りの御成程に
御立寄りの御成程に
御立寄りの御成程に
御立寄りの御成程に
御立寄りの御成程に
御立寄りの御成程に
御立寄りの御成程に
御立寄りの御成程に

はち 舟
近江 舟
紀伊 舟
他馬 舟
輪々 舟
共 舟
松 舟
修 舟
青馬 舟
安 舟
安 舟
修 舟
舟上

春四六

鸞

駒鳥

松葉鳥
鳥巢

啼き渡る御立寄りの御成程に
御立寄りの御成程に
御立寄りの御成程に
御立寄りの御成程に
御立寄りの御成程に
御立寄りの御成程に
御立寄りの御成程に
御立寄りの御成程に
御立寄りの御成程に
御立寄りの御成程に

松 舟
安 舟
安 舟
修 舟
青馬 舟
安 舟
安 舟
修 舟
舟上

雀巢

雀巢の鳥は巣を築く
鳥の巣は木の枝に
築く鳥の巣は木の枝に
築く鳥の巣は木の枝に
築く鳥の巣は木の枝に
築く鳥の巣は木の枝に
築く鳥の巣は木の枝に
築く鳥の巣は木の枝に
築く鳥の巣は木の枝に
築く鳥の巣は木の枝に

如風
三巴
三泉
其柙
素尋
家風
竹外
文少
凉臥

雀子

春四十七

鳥啼

朝會

継尾誓
鈴指誓
鷹化成鳩

泊山

鳥の啼きも春の鳥の啼き
朝の会も春の朝の会
継尾の誓も春の継尾の誓
鈴指の誓も春の鈴指の誓
鷹化の成も春の鷹化の成
鳩の成も春の鳩の成
泊山の鳥も春の泊山の鳥
泊山の鳥も春の泊山の鳥
泊山の鳥も春の泊山の鳥
泊山の鳥も春の泊山の鳥

泊山
出會
石鼓
急陵
南拳
し意
麥毒
青楓
青荷

泊狩
地虫出

地虫出
蝶

山屋戸梅子実の根の那
河之ふ朝のややまり狩
地場あつたにまをひき
ゆきまき日影をひく
おきかきとてはれおの
ひまき地をまきしとて
聲あつかまの蝶はさ
くまきまきまきまき
てまきまきまきまき
まきまきまきまき

山白
菅道
此相
園文
里見
曾秋
林可
鳥語
雨石
杉夕

春四ノ八

蝶やこまきまきまき
山屋戸梅子実の根の那
河之ふ朝のややまり狩
地場あつたにまをひき
ゆきまき日影をひく
おきかきとてはれおの
ひまき地をまきしとて
聲あつかまの蝶はさ
くまきまきまきまき
てまきまきまきまき
まきまきまきまき

桃如
我樂
如水
光明
古勢
文里
一行
朝夢
遊石
谷水

航

蜂

牛もろやめりあつらぬ蜂の音
早打やてふもたふれ蜂の音
音の音もすもや航の音
音の音もすもや航の音
音の音もすもや航の音
音の音もすもや航の音
音の音もすもや航の音
音の音もすもや航の音
音の音もすもや航の音
音の音もすもや航の音

表字
丹波 子龍
坂方 左保
但馬 十城
左 知白
右 了曉
祥然
桂色
叢菴
下段 雨律

春四ノ九

蛙

蛙の音もすもや航の音
蛙の音もすもや航の音
蛙の音もすもや航の音
蛙の音もすもや航の音
蛙の音もすもや航の音
蛙の音もすもや航の音
蛙の音もすもや航の音
蛙の音もすもや航の音
蛙の音もすもや航の音
蛙の音もすもや航の音

有光
桂雨
似柳
雲帯
馬瓢
朝秋
古菜
雨老

蛙子

梅の島原よりくまなく蛙
たぐの中は冷たふ言也同の蛙
遊のまてし合ふ之類やある
夜ひるまに夜暮るまに蛙
蛙子や破皮のしはのさす
かゝるやあましく同類あり
うらまひのさすをさすは
餅料やあましく同類あり
くまなく蛙のさすは
蛙子たぐりやうらまひ

之何 少葉
梅家
花窓
桃秋
牛琴
淡水
末風
蘭室

春五十

田螺

うらまひや人のさすは
塊おのりしは同類あり
おのりやあましく同類あり
稲穂や田螺のさすは
苗のさすは同類あり
あましくさすは同類あり
物に根はあましく同類あり
馬方むくやあましく同類あり
世の中あましく同類あり
初めや日の同類あり

塘
老蟻
凡鳥
葛麻
芥子
風怒
蒲茅
春南
披良
政亨

蠶

穿居虫

初謝

乃子鹿

鹿角落

其乃鹿

乃子鹿 鹿角落 其乃鹿 鹿角落 其乃鹿 鹿角落 其乃鹿 鹿角落 其乃鹿 鹿角落

紙書

紙書 野之乃鹿 鹿角落 其乃鹿 鹿角落 其乃鹿 鹿角落 其乃鹿 鹿角落 其乃鹿 鹿角落

三月
てん中のうしろのうしろのうしろ
伸のうしろのうしろのうしろ
ゆちのうしろのうしろのうしろ
あつちのうしろのうしろのうしろ
うしろのうしろのうしろのうしろ

原心
張一
二仙

龍在
支玉

末
南昌

近江
荒文

上巳
春生
あつちのうしろのうしろのうしろ
うしろのうしろのうしろのうしろ
うしろのうしろのうしろのうしろ

左江
産白

祐之

臨光

春五ノ春

曲水
鷗合
雛祭

あつちのうしろのうしろのうしろ
うしろのうしろのうしろのうしろ
うしろのうしろのうしろのうしろ
うしろのうしろのうしろのうしろ
うしろのうしろのうしろのうしろ
うしろのうしろのうしろのうしろ
うしろのうしろのうしろのうしろ
うしろのうしろのうしろのうしろ
うしろのうしろのうしろのうしろ
うしろのうしろのうしろのうしろ

張一
鷗心

如平
夢道

尾江
可調

志平
里冬

張一
雨音

帆風

陸更
雨浪

張一
指嶋

如平
五川

如平
龜文

桃柳

細月とともや鮎の丈ぬあふ
似しものまふぬさくらかこ鮎
細布結曾阿のさくらや白布鮎
おむきさるふ形さくらや紙金さ
はのひのち相もさくらさくら
御り古まのさくらやかまらふ
人垣さくらさくら鮎のさくらさくら
とさくらさくらさくら鮎乃目無さ
さくらさくらさくらさくら鮎さくら
さくら柳さくらさくら鮎さくらさくら

英日五十四

梅珠

蘭室

金巻

洗車

筆海

碧雲

風送

素心

一泉

世美心

桃酒

桃酒を半せまうや鮎乃目無所
いさひのさくらさくらさくらさくら酒

文心

柳髪

柳髪をさくらさくら柳乃目無
さくらさくらさくらさくらさくら

柳下

柳太刀

柳太刀をさくらさくら柳乃目無
さくらさくらさくらさくらさくら

東朝

草餅

草餅をさくらさくら柳乃目無
さくらさくらさくらさくらさくら

家凡

菱餅

菱餅をさくらさくら柳乃目無
さくらさくらさくらさくらさくら

石州

謝下

古きものしるしをたのむるに
糸柱の結ぶるしるしをたのむるに
もろもろのしるしをたのむるに
はるばるのしるしをたのむるに
一人のしるしをたのむるに
ふり向かざるしるしをたのむるに
一甲のしるしをたのむるに
たのむるしるしをたのむるに
かたがたのしるしをたのむるに
糸柱の中はしるしをたのむるに

丁の
行人
可也
五尺
素堂
春雨
杏扉
園更
梅止

春五五

安良花

十のしるしをたのむるに
糸柱の結ぶるしるしをたのむるに
もろもろのしるしをたのむるに
はるばるのしるしをたのむるに
一人のしるしをたのむるに
ふり向かざるしるしをたのむるに
一甲のしるしをたのむるに
たのむるしるしをたのむるに
かたがたのしるしをたのむるに
糸柱の中はしるしをたのむるに

凡の
佐葉
保鶴
市原
三蘭
雨竹
春潮
比嘉
翠室
一公

壬生齋

十本齋

漢念仏

暖味自裁

東書難

峯入

出代

結春の... 暖味自裁... 東書難... 峯入... 出代...

東 引泉
道肥
几董
夏全
東 二拾
梅全
仙凡
採夢
却友
為良

春五ノ六

出代... 暖味自裁... 東書難... 峯入... 出代...

丹在 一拾
上計 采砂
丹在女 采砂
采砂
女 采砂
志仙
自延史
橋井
自耳

爐名殘

炸塞

ちりまきやきやうきりまのち
出代めくまはなほまじりまのち
出代りけりまはなほまじりま
まはなほまじりまのち
物まじりまのち
寒くまじりまのち
海まじりまのち
まじりまのち
まじりまのち
まじりまのち

冬後 似龍
和泉女 鹿半
純侍 虎咽
侍者 吐舌
此指
此家知
魯白
招活
佐後 貞阿

春五七

八夜

霜名殘

永日

霜寒くはなほまじりまのち
炸寒くはなほまじりまのち
炸寒くはなほまじりまのち
炸寒くはなほまじりまのち
炸寒くはなほまじりまのち
炸寒くはなほまじりまのち
炸寒くはなほまじりまのち
炸寒くはなほまじりまのち
炸寒くはなほまじりまのち
炸寒くはなほまじりまのち

冬後 桃溪
安藝 風葉
陸奥 凡葉
東翠
末 三鼓
左 夏推
佐後 洞芝
日向 遊水
近江 東籬

花

風を日影をうらみゆく白の雪
水白波をうらみゆく木縁の
花を白波をうらみゆく白波の
水白波をうらみゆく白波の
水白波をうらみゆく白波の
水白波をうらみゆく白波の
水白波をうらみゆく白波の
水白波をうらみゆく白波の

兼隱 後中
松清 長門
丈山
魚吹 木村
林全 坂本
巴文 信法
字考 光永
波鴉 近江
志周 淡和

春五ノ八

水白波をうらみゆく白波の
水白波をうらみゆく白波の
水白波をうらみゆく白波の
水白波をうらみゆく白波の
水白波をうらみゆく白波の
水白波をうらみゆく白波の
水白波をうらみゆく白波の
水白波をうらみゆく白波の

李朝 上級
指月 後中
嶽碎 後中
坡仄 後中
太溪 後中
文里 後中
梅中 後中
太安 後中
岷山 後中

櫻

はるかにあけぬ花のしら
さきいそいで花もさき
さきいそいで花もさき
もりよふ花もさき
あはれいそいで花もさき
もりよふ花もさき
あはれいそいで花もさき
もりよふ花もさき
あはれいそいで花もさき
もりよふ花もさき

伊勢 五雲
後右 凉瓜
後右 山梨
張右 郎城
信長 雲景
聖角
周文
沂風
藤原

春五ノ九

山櫻

うす木を花梅さきいそいで
さきいそいで花もさき
さきいそいで花もさき
さきいそいで花もさき
さきいそいで花もさき
さきいそいで花もさき
さきいそいで花もさき
さきいそいで花もさき
さきいそいで花もさき
さきいそいで花もさき

張右 官胤
長門 致一
長門 相宇
後右 枕岡
信長 才植
信長 槐之
信長 山梨
長門 杜音
尾張 里曉
尾張 素雪

遅梅

落花

そは花のつらきものも
木枯らしも風吹かしも
心細くも花の散るも
花の散るも心細くも
花の散るも心細くも
花の散るも心細くも
花の散るも心細くも
花の散るも心細くも

何故 士然
何故 山
何故 一舟
何故 維駒
何故 湖舟
何故 牛乳
何故 祖風
何故 青霞
何故 春山
何故 春山

春六十

花守

やそこの花の散るも
木枯らしも風吹かしも
心細くも花の散るも
花の散るも心細くも
花の散るも心細くも
花の散るも心細くも
花の散るも心細くも
花の散るも心細くも

何故 木鷗
何故 如在
何故 梅齋
何故 可花
何故 山
何故 山
何故 山
何故 山

花見

花見のさくらをいふは高知の
さくら今昔のさくらをいふ
阿のさくらいほのさくらをいふ
梅のさくらをいふはあけぼのさくら
けさくらをいふはあけぼのさくら
さくらをいふはあけぼのさくら
梅のさくらをいふはあけぼのさくら
けさくらをいふはあけぼのさくら
さくらをいふはあけぼのさくら
梅のさくらをいふはあけぼのさくら

魚傘
巴陵
寸清
兼強
亀文
百尾
馬田
一以
雨流
鶏口

春六ノ一

梅狩

梅狩のさくらをいふは高知の
さくら今昔のさくらをいふ
阿のさくらいほのさくらをいふ
梅のさくらをいふはあけぼのさくら
けさくらをいふはあけぼのさくら
さくらをいふはあけぼのさくら
梅のさくらをいふはあけぼのさくら
けさくらをいふはあけぼのさくら
さくらをいふはあけぼのさくら
梅のさくらをいふはあけぼのさくら

貞招
栄
李平
兼強
梅里
素兆
仙風

桃

梨花

二月の初めから三月の末まで
及のちの初春に花を咲かせる
此の頃の仙女といふものあり
心ゆくも花を咲かせるもの
秋の末から春の初めまで
月乃花と云ふものあり
花を咲かせるものあり
花を咲かせるものあり
花を咲かせるものあり

近江 行楽
加賀 柳人
三河 柳南
三河 折風
三河 五井
三河 再三
三河 林介
紀伊 次中
紀伊 對井

春六二

木花
林檎
材花
海棠

あまのこゝろのこゝろのこゝろ
かたのこゝろのこゝろのこゝろ
申すやうに花を咲かせるもの
いふものあり
海棠や花を咲かせるもの
海棠や花を咲かせるもの
海棠や花を咲かせるもの
海棠や花を咲かせるもの
海棠や花を咲かせるもの

近江 左右
加賀 加角
三河 呂特
三河 折婆
三河 子鬼
三河 依子
三河 度母
三河 徳義
三河 東政
三河 支百

山吹

藤

しんせうのうらなひのうらなひ
あまのうらなひのうらなひ
あまのうらなひのうらなひ
あまのうらなひのうらなひ
あまのうらなひのうらなひ
あまのうらなひのうらなひ
あまのうらなひのうらなひ
あまのうらなひのうらなひ
あまのうらなひのうらなひ
あまのうらなひのうらなひ

加賀 佛仙
若原 東取
藤下 桃牛
近江 櫻屋
藤下 雛凡
和歌 竹意
和歌 羽美
和歌 半島
和歌 鳥咽
和歌 周我

春六ノ巻

躑躅

楮花

あまのうらなひのうらなひ
あまのうらなひのうらなひ
あまのうらなひのうらなひ
あまのうらなひのうらなひ
あまのうらなひのうらなひ
あまのうらなひのうらなひ
あまのうらなひのうらなひ
あまのうらなひのうらなひ
あまのうらなひのうらなひ
あまのうらなひのうらなひ

和歌 羽人
和歌 竹意
和歌 斗外
和歌 下谷
和歌 曾秋
和歌 素鳩
和歌 批也
和歌 櫻屋
和歌 素丸
和歌 鳥波

木瓜花

木瓜花の香は木に透りて清く

木瓜

木蓮

木蓮の花は白く清く

文冠

辛夷

辛夷の花は紫く清く

辛夷

馬蹄花

馬蹄花の花は白く清く

馬蹄

檜花

檜の花は白く清く

檜

藕花

藕の花は白く清く

藕

櫻桃花

櫻桃の花は白く清く

櫻桃

春六ノ四

沉下花

沉下花の香は清く

沉下

長春花

長春花の香は清く

長春

小粉園花

小粉園花の香は清く

小粉園

石楠花

石楠花の香は清く

石楠

櫻桃花

櫻桃花の香は清く

櫻桃

芍薬花

芍薬花の香は清く

芍薬

金粟花

金粟花の香は清く

金粟

九輪花

九輪花の香は清く

九輪

櫻桃花

櫻桃花の香は清く

櫻桃

母子草

母子草の香は清く

母子草

五形 芽花 念信 虎杖 董 若菰 蔞生初 青麥

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

桑 山巴 一徹 鳩山 下地 林鼓 深蒙 巴菊 里田 信公 上取 砂明 約我 春六ノ五

藝者出 三月業 茶摘 茶葉撰

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

鳥福 蘭長 葉哉 山家 白考 梅后 金生 芥人 泰夫 其朝

新編

蠶

掃きこむはくしつゝのまゝなり
紙のむらゝるも葉のまじ
くも掃きこむも本意也
葉のまじり時葉のまじり
かゝるもむらゝるのまじり
たゞむらゝるむらゝるまじり
葉のまじりもむらゝるまじり
紙のまじりもむらゝるまじり
むらゝるむらゝるまじり
むらゝるむらゝるまじり

春六六

寸江

故栖

航華

樂家

如在

東走

陶々

雲人

江山

浅里

呼子鳥

郭公泉

雁集

麥鵲

田圃化鶴

鳥啼

雲鳥

書の尾をくくむらゝる
むらゝるむらゝるまじり
むらゝるむらゝるまじり
むらゝるむらゝるまじり
むらゝるむらゝるまじり
むらゝるむらゝるまじり
むらゝるむらゝるまじり
むらゝるむらゝるまじり
むらゝるむらゝるまじり
むらゝるむらゝるまじり

以琴

梧堂

紅

嵐荷

三福

杜李

茶柙

其雨

純市

如風

櫻鯛

櫻魚

櫻鱒

楊貝

柳鏡

若點

汲點

しんぎや橋さくらけしき網
梅さくらけしき網さくらけ
よし梅さくらけしき網
さくらけしき網乃日和那
錦さくらけしき網さくらけ
しんぎや橋さくらけしき網
日さくらけしき網さくらけ
錦さくらけしき網さくらけ
しんぎや橋さくらけしき網
錦さくらけしき網さくらけ

生薑

金鏡

和泉

牛也

如平

生薑

後后

成之

生薑

李仙

山後

李雲

山後

古律

生薑

二三

生薑

几華

春六ノ七

魚上藥

夏近

夏待

春暮

やんぎや橋さくらけしき網
梅さくらけしき網さくらけ
よし梅さくらけしき網
さくらけしき網乃日和那
錦さくらけしき網さくらけ
しんぎや橋さくらけしき網
日さくらけしき網さくらけ
錦さくらけしき網さくらけ
しんぎや橋さくらけしき網
錦さくらけしき網さくらけ

大和

古州

佐子母

生薑

生薑

生薑

生薑

白胡

生薑

秋心

生薑

長山

生薑

輕舟

生薑

友之

生薑

生薑

生薑

杜由

暮春

行春

大和路もよみ寄るとしきり
閑坐と面の日影もくれば
古方ほどは花もよもいれ
花もよもいれよもいれ
いれよもいれよもいれ
いれよもいれよもいれ
いれよもいれよもいれ
いれよもいれよもいれ
いれよもいれよもいれ
いれよもいれよもいれ

定本

蒲尺

未

彫鼓

後夜女

梅東

此書

土作

大急

甲斐

春六ノ八

惜春

三月盡

いれよもいれよもいれ
いれよもいれよもいれ
いれよもいれよもいれ
いれよもいれよもいれ
いれよもいれよもいれ
いれよもいれよもいれ
いれよもいれよもいれ
いれよもいれよもいれ
いれよもいれよもいれ
いれよもいれよもいれ

三信

母后

三信

卓子

菓子

菓子

菓子

菓子

菓子

菓子

困育

行...
...
...
...

馬...
...
...
...

春六九終



990
11111

